

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

学級の委員会や係を決める際に、全ての生徒に対して一人一役を与え、学級での明確な役割を担わせた。自分にできることを学級のために行う生徒の気持ちを大切に、学級への所属意識を高めた。また、学校行事では毎回プロジェクトチームを作り、生徒が学校行事の成功に向けて取り組みたいことを考えるようにした。教師が生徒の考えを認め、前向きな声掛けをすることで、生徒が安心して活動できるようになった。

#### 【取組2】(A中学校)

生徒会主催の全校レクリエーションを実施し、異学年との親睦を深める機会を設けた。生徒会役員が各専門委員会に協力を仰ぎながら企画・準備・運営を行った。体験活動を通じて喜びや楽しみを共有することで豊かな人間関係を生み、多くの生徒にとって学校を魅力ある場所にする事ができた。

また、ボランティア活動の充実に向けて、学校内外での活動に積極的に取り組んだ。学校運営協議会や青少年対策地区委員会と連携をして、本校敷地内の畑での農作物の植え替えや地域のイベントの運営補助を行った。幼稚園や小学校でもボランティア活動を実施し、地域との交流を通して社会貢献力を育むことを目指した。どの生徒にとっても活躍できる場を提供し、自己有用感や充実感を高めていった。



#### 【取組3】(B中学校)

日々の授業において、どの教科でも生徒が自分の意見を言い合える環境づくりに力を入れるために、まずは生徒自身を認める言葉掛けを教職員が意識して実践している。生徒の苦手なことや失敗も受け入れることで、生徒が安心して学校生活を送ることができ、何事にも挑戦する力を高めることができた。授業の中で、小さなことでも生徒が自己決定することで、決めたことをやり遂げる力を高め、達成感を味わうことができています。

#### 【取組4】(C中学校)

不登校対応や特別支援教育に関連した研修会を実施した。不登校を生じさせない取組として、日頃からの生徒への声掛けの仕方や教室環境の整え方、保護者対応のポイント等の細かな部分への配慮事項を確認することができた。若手教員に限らず、全ての教職員が押さえておきたい項目であり、今後の生徒理解のために役立てられる内容である。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C中学校）

毎週の支援会議で不登校生徒や登校が不安定な生徒の情報共有や具体的な支援の方策について協議した。SCや特別支援教室専門員、不登校対応巡回教員等の様々な視点から対応策を検討している。共有した情報は各学年で速やかに回覧し、今後の支援に役立てている。

#### アウトリーチによる支援（B中学校）

学級担任と連携し、不登校対応巡回教員が毎週、家庭訪問を実施した。生徒の自宅周辺を一緒に散歩したり、自宅付近の図書館で顔を合わせたりすることができた。また、学校行事の際は不登校対応巡回教員が個別に引率することで、不登校生徒が参加することができた。

#### 校内別室における支援（A中学校）

2学期から校内別室を移転し、それに伴いレイアウトを変更した。パーテーションを増設し、壁に向く座席を設けることで、人目を避けたい生徒への配慮を実施した。

校内別室の利用の際は、個人で学習を進める時間の確保に加え、小集団でのコミュニケーション活動の時間も取り入れている。特別支援教室専門員と連携し、特別支援教室で活用しているカードゲームを借りて、校内別室を利用している生徒同士だけでなく教職員との交流も深めた。他者との関わり合いの中で自分を理解し、自己肯定感を高めていく支援を続けている。



#### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

欠席生徒への学習保障のため、オンライン授業の配信を実施している。校内別室からも参加できる体制を整えており、教室の様子を随時確認することができている。また、一人1台端末を用いて不登校生徒と学級担任だけのクラスルームを作成し、学校とのつながりを絶やさないようにしている。

#### 関係機関との連携（C中学校）

定期的に巡回相談心理士が来校し、授業中の生徒の行動観察を通して、特別な支援が必要な生徒への指導方法について教職員間で共有している。生徒の抱える困難さを改善するために、専門的な意見を取り入れ、継続した支援を組織的にを行っている。

## 成果

生徒にとって学校が安心できる場所になるための取組を教職員が団結して実践することで、どの学校でも新規の不登校生徒の割合を前年度より減少させることができた。

## 課題

不登校が長期化している生徒に対しても丁寧な関わりを組織的に行うことが必要である。